

2024 年度アジア生協協力基金一般公募助成事業

中間報告書

団体名	特定非営利活動法人 アジアクラフトリンク
申請事業名	ミャンマー・バゴー市の木工産業振興のための人材育成とグループ化支援事業
事業の担当者名	大場 寛之
助成金額	1,000,000 円
事業の概要	ミャンマー・バゴー市の木工品生産者が植林材や公式木材を活用できる調達の仕組みづくりと生産技術の向上、共同生産拠点の運営支援をおこなうことで木工産業の収益性を高めながら、現地の産業関係者の人材育成と組織化を促進し、収益性を高めるための取り組みが自立的かつ持続的におこなわれるよう支援する。

【ご記入前の注意】

- ・ 本報告書は 2024 年 9 月提出の中間報告書および 2025 年 3 月提出の最終報告書の両方を兼ねています。最終報告書は中間報告書に追記する形で記入しご提出ください。
- ・ 中間報告書としての提出期限は「**9月30日**」、最終報告書としての提出期限は「**3月31日**」です。
- ・ 中間報告書では「1. 4月～8月に実施した事業内容について」「2. 中間報告書提出時点での事業の振り返り」までを記入し、最終報告書ではすべての事項について記入するようにしてください。
- ・ 記入欄等は自由に拡張頂いて構いません。
- ・ 記入頂いた内容は運営委員会の報告以外に、アジア生協協力基金活動報告書『アジアに架ける虹の橋』、生協総研 HP に掲載され、アジア生協協力基金の広報に活用させて頂く場合があります。

1. 4月～8月に実施した事業内容について

※実施した事業の内容、参加者等について簡潔に記述下さい。

※9月の内容を記入される場合は、「3. 9月～翌年2月に実施した事業内容について」に記入ください。

4 月
<ul style="list-style-type: none">・ 4月10日、昨年度事業のミャンマー人講師によるビジネスマネジメント研修を実施した。過去の研修テーマの振り返りを実施した。8名が参加した。・ 4月26日、日本・新潟市で、本事業による活動と木工品を紹介する「ミャンマー展」を開始した。会期10日間に6000名以上の来場があった。・ 4月29日、上述のミャンマー人講師によるビジネスマネジメント研修の最終テストを実施した。7名が参加した。・ 4月、当会現地スタッフおよび AMC スタッフが木材調達の情報収集と品質確認を実施し、植林

材マレーカリンを購入、生産者へ分配した。最終製品は AMC が品質確認を実施した。

- ・ 4 月、昨年度開設した共同作業所の運営と環境整備を継続した。以降本事業期間において継続。

5 月

- ・ 5 月 15 日、当会の日本人駐在スタッフ 1 名が新たに着任した。本年度事業のビジネスマネジメント研修は、同スタッフの知見を生かして、業務のデジタル化への対応と語学といった具体的なビジネススキルを対象に構成することとした。
- ・ 5 月 18 日、事業の計画と役割、ビジネスマネジメント研修の内容について、当会日本人スタッフ・現地スタッフ、AMC スタッフがキックオフミーティングを実施した。
- ・ 5 月 21 日、昨年度のビジネスマネジメント研修のミャンマー人講師と、最終テストの結果分析と成果確認の打合せを実施した。
- ・ 5 月 28 日、AMC にミャンマー人マネージャー 1 名が新たに着任した。既存のスタッフに加えて、同スタッフが木材乾燥技術の研究と情報整理の担当を開始した。
- ・ 5 月 29 日、公式木材の担当部局を訪問し、木工品生産者への材料供給の安定化に向けた相談と情報提供依頼を実施した。
- ・ 5 月 31 日、当会、AMC、木工品生産者が集い、三者ミーティングを実施した。生産計画や品質向上について協議した。

6 月

- ・ 6 月 9 日、日本・新潟市でマルシェイベントに出店、本事業による活動と木工品を紹介した。
- ・ 6 月、当会現地スタッフおよび AMC スタッフが木材調達の情報収集と品質確認を実施し、植林材ユーカリを購入、生産者へ分配した。最終製品は AMC が品質確認を実施した。
- ・ 6 月、昨年度設置した 20 フィートコンテナを用いた木材乾燥庫を利用して、木材乾燥試験とデータ収集を開始した。
- ・ 6 月、当会スタッフを講師としたビジネスマネジメント研修（スキルアップ編）の実施手法の確認と必要備品の準備を実施した。

7 月

- ・ 7 月 1 日、10 フィートコンテナを 2 基購入し、7 月 8 日に事業地へ搬入、木材乾燥庫に改修して AMC の木材置き場に増設した。以降、改良と乾燥試験を継続した。丸太から直方体に切り出したスクエア材→ブロック材→粗成形→成形の各工程において、地域の木工品生産者が、材料を AMC の作業所に持ち込んで木材乾燥庫へ入れ、乾燥済みの材料を持ち出して次工程を行なうという方法を繰り返し、本事業により設置した木材乾燥庫を地域の木工品生産者が共同利用した。
- ・ 7 月 7 日、当会、AMC、木工品生産者、三者の共同活動として、バゴータウンシップで有用樹の植林活動を実施した。
- ・ 7 月 16 日、当会スタッフを講師としたビジネスマネジメント研修（スキルアップ編）を開始した。最初にコンピュータークラスを開講し、対象者 9 名を 3 グループに分けて週に 3 日（各グループ 1 日）、当月は 3 週（各グループ 3 日）実施した。9 名が 3 回ずつ参加した。開講初日は、ベースライン調査として入力スピードテストを実施し、各人の受講前スキルを測定した。
- ・ 7 月 26 日、ビジネスマネジメント研修において、コンピューターに続き語学クラスを開講した。
- ・ 7 月 26 日、事業地で大雨洪水被害が発生した。浸水被害に遭う恐れがある工房には、比較的高

台に位置する共同作業所を一時的な生産拠点ならびに避難先として利用できるよう周知、案内した。被害に遭った1軒が、事前に共同作業所に機械を避難し、生産活動を継続することができた。また、本件の調整を行なう際に、各工房で保管する材料木材に浸水のリスクがあることや、日常的な保管意識にも不十分な場面があることが確認されたため、翌8月以降、材料木材の保管と管理に関する現状調査と能力向上に着目した活動の予定を立てた。

- 7月、当会現地スタッフおよびAMCスタッフが木材調達の情報収集と品質確認を実施し、植林材ユーカリ、マレーカリンを購入、生産者へ分配した。最終製品はAMCが品質確認を実施した。

8月

- 8月、当会現地スタッフおよびAMCスタッフが木材調達の情報収集と品質確認を実施し、植林材ユーカリを購入、生産者へ分配した。最終製品はAMCが品質確認を実施した。
- 8月、木材乾燥庫の稼働試験を経て、5基の乾燥（保管）庫のそれぞれの用途を明確に区別し、利用者らにその使い分けの周知と定着を図った。このことにより、多くの生産者らが共同で利用する場合でも、乾燥状態の大きく異なる材料が混在することを避けられるようになり、効率よく確実に木材乾燥を行なうことができるようになった。
- 8月、AMC、共同作業所、各工房における材料木材の保管状況の調査を実施した。雨季に濡れやすい場所で保管しており木材乾燥に影響しているケースや、材料の保管量が把握しづらいケースが確認され、個々の生産現場に対する研修の一環として、改善提案を実施した。
- 8月24日、共同作業所の材料木材置き場に、屋根の設置が完了し本格的な雨季でも適切に保管できる空間を整備した。
- 8月、ビジネスマネジメント研修を継続した。

2. 中間報告書提出時点での事業の振り返り

達成された成果

【新しい材料の利用】

(実施内容のまとめ)

- 現地人材が主体となって、植林材ユーカリ、マレーカリンの植林地の情報収集、品質確認、調達を継続した。
- コンテナサイズの木材乾燥庫を増設し、各乾燥庫の用途を明確に定めた。
- 材料木材の保管状況の調査と改善提案の取り組みを開始した。

(成果)

- 木材調達、木材乾燥ともに、昨年度事業の成果と課題を踏まえて活動を継続し、木工品生産者が、植林材を活用した、高付加価値市場向けの生産活動を行なうことができた。
- 材料木材の保管状況の改善と、木材乾燥庫の利用方法の整理によって、木材乾燥が、標準的な環境下で安定して実施できるようになり、地域の生産量に応じた材料木材を、効率よく乾燥できるようになった。さらに、改善の過程において、地域の生産者らへ資源の大切さに対する気づきを持ってもらう契機となった。

【現地関係者の人材育成とグループ化】

(実施内容のまとめ)

- ・ 当会日本人スタッフを講師とした、具体的なビジネススキルに着目したビジネスマネジメント研修（スキルアップ編）を開始した。
- ・ 生産者とのミーティングや共同活動、共同作業所の運営を実施した。

(成果)

- ・ 現地人材の能力向上と、木工品生産に関わる人材間の交流を促進することができた。なかでも共同作業所には、13名の、自身の工房を持たない生産者などが来所しながら生産活動を継続しており、現地人材間の交流、若年層の雇用創出に貢献している。
- ・ さらに、前段の木材乾燥庫の利用方法のルール化の取り組みも、地域の生産者らが共同で取り組む良い題材となり、生産者間の協働が促進されている。

現時点で明らかとなった課題

- ・ 現地社会の混乱による燃料高騰、電力不足、通信・物流の乱れ、資材不足などの困難が長く続いている。そのため事業後半も、生産者との意見交換を大切にすることを心がけ、生産者コミュニティに必要で有効な支援方法を選択していく必要がある。
- ・ 申請時には外部人材に依頼する想定で予算立てしたビジネスマネジメント研修は、事業地に駐在する当会日本人スタッフがコーディネータ兼講師として実施することになった。そのため、当該専門家派遣費の一部が未執行となり残額が見込まれているため、本報告以降、他の経費へ予算移動することを検討したい。木材乾燥庫の活用に重点的に取り組んでいるため、当該経費への移動を検討中である。